

Trimble Access

バージョン 2024.10 リリースノート

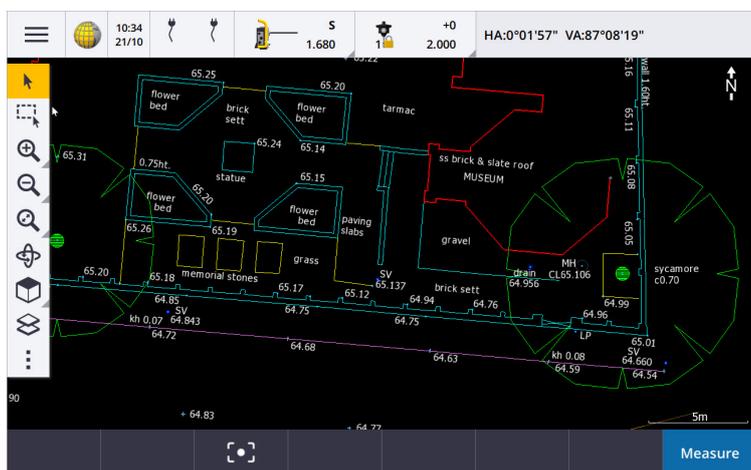
このリリースのTrimble® Access™ソフトウェアには、次の変更点が含まれています:

新機能および機能強化

マップダークモード

マップ設定画面の新しいダークモード設定を使用すると、マップの背景を黒に変更できます。これは、暗い場所で作業する場合や、明るい色の線画を使用しているときにコントラストを向上させる場合に便利です。

マップ設定画面を表示するには、マップツールバーの  をタップし、**設定**を選択します。ダークモードチェックボックスは、表示グループボックスに含まれています。



KMLファイルとKMZファイルのサポート

Google EarthのKMLファイルやKMZファイルをジョブに関連付けて、マップに表示できるようになりました。

KMLファイルおよびKMZファイルは常にWGS 1984座標系であるため、投影座標系を使用する任意のジョブに関連付けることができます。WGS 1984座標はジョブ座標に変換することができないため、縮尺係数のみおよび投影なし/座標系なし座標系を使用するジョブでは表示されません。KMLファイルおよびKMZファイルでは測量の精度は得られませんが、数メートル以内の精度で作業現場の境界を示すポリゴンや、Google Earthの該当領域にスケッチされた近くの湿地など、作業に関連する一般的な地理情報を提供するのに役立ちます。

マップ内のKMLファイルまたはKMZファイル内の特徴をTrimble Accessで選択し、それらに関する属性情報を表示することができます。スナップ先 ツールバーを使用すると、目的のポイントやラインの終了ポイントをより簡単に選択することができます。

計測した距離に関する機能強化

Trimble Access 2024.10では、計測した距離測量計算機能を使用して、建物や建物の基礎などの長方形の構造物を定義するポイントをすばやく追加する際の次の機能強化が含まれています:

- 一つの既知のポイントからワークフローを開始し、二つの既知のポイントから開始するのではなく、二つ目の既知のポイントに結合することができるようになりました。一点法の初期方向は、画面上の任意の場所をタップすることで設定され、後で二つ目の既知のポイントに結合すると、線の方向が調整されます。
- 一点法と二点法の両方で、既知のポイントに結合されると、閉合差の値が表示されます。その後、閉合差を調整して誤差を分散させるか、調整せずに最後の距離を追加するかを選択することができます。
- **編集**ソフトキーを使用して、まだ保存されていない任意のラインの距離、方向、または名前を変更できるようになりました。
- 各線の向きは、+キーと-キーを使用して簡単に設定できるようになりました。長さの値の前に+を入力して向きを+90°(時計回り)変更するか、-を入力して向きを-90°(反時計回り)変更します。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)の計測した距離のトピックを参照してください。

オーガナイザの改善

- Trimble Connectオーガナイザで設定されたルールベースのグループがTrimble Accessでサポートされるようになりました。以前は、手動グループとして保存されたグループのみがTrimble Accessで使用できました。
- BIMモデル(複数可)から選択した項目をオーガナイザツールを使用しながら確認できるようになりました。項目を確認するには、BIMツールバーのオーガナイザ  をタップし、選択を行ったらレビューをタップします。レビューリストから項目をタップして選択します。前へまたは次へソフトキーを使用して、別の項目を確認します。Escキーを押して、オーガナイザフォームに戻ります。
- オーガナイザを閉じても選択内容が保持されるようになりました。

GNSS受信機からのNMEA出力の強化

Trimble Access 2024.10では、接続されたGNSS受信機からの位置情報をNMEA-0183メッセージとして共有し、さらに別のデバイスに送信する機能を以下の通りに強化しています。

- Android搭載コントローラを使用しているときに、受信機ポートフィールドでBluetoothを選択できるようになりました。以前は、Bluetooth接続はWindows搭載コントローラの使用時にのみサポートされていました。
受信機ポートフィールドでBluetoothを選択すると、Trimble Accessソフトウェアは、GNSS受信機のBluetoothポート1を使用して追加デバイスが接続されるものとみなします。
- 注意** - Android搭載コントローラの使用時に、Bluetoothを使用してNMEAメッセージを出力するには、Trimble ProPointテクノロジーを搭載したGNSS受信機では、ファームウェアバージョン6.28以降が必要です。GNSS受信機にTrimble ProPointテクノロジーが搭載されていない場合は、ファームウェアバージョン5.68以降が必要です。
- NMEA出力に使用できるポートに、USB仮想シリアルポートオプションが含まれるようになりました。これは、受信機のUSB lemoポートからUSB-AコネクタへのケーブルPN 80751で使用されます。
USBシリアルポートオプションに変更はなく、受信機のUSB lemoポートからDB9シリアルコネクタへのケーブルPN 87144をサポートします。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)のトピックNMEA出力オプションを参照してください。

機器からのNMEA出力に関する機能強化

Trimble Access2024.10では、接続された光学測量機器からの位置情報の共有、さらに別のデバイスへの送信機能を以下の通りに強化しました。

- すべてのストリーミングデータ出力形式が、WindowsデバイスとAndroidデバイスの両方でBluetooth経由で利用できるようになりました。
- 北距、東距、および標高の値をストリーミングするための既存の**疑似NMEA GGA**データ出力オプションに加えて、コントローラから接続された機器に緯度、経度、および高度の値をストリーミングするための標準の**NMEA GGA**データ出力オプションが追加されました。**NMEA GGA**オプションは、海洋電子機器のインターフェースに関するNMEA-0183規格に準拠しています。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)のトピック**データ出力オプション**をご参照ください。

特徴コードによる測定の機能拡張

- **測定コード**画面のすべてのボタンをいつでも元のコードにリセットできるようになりました。**測定コード**画面で  をタップして**測定コード**の**編集**画面を表示し、**すべてのストリング番号**をリセットボタンをタップします。この操作でボタンからストリング接尾辞が削除されます。
- **測定コード**または**測定コードの編集**画面で、特徴ライブラリファイル内のグループの初期設定テンプレートに変更を加えた場合、その変更は変更が行われたコントローラにのみ適用され、特徴ライブラリファイル内の初期設定グループには影響しません。

測定方法にファンクションキーを設定する

地形の測定または**ポイントの測定**画面で使用可能な測定方法にファンクションキーを設定することができるようになりました。この操作により、タッチスクリーンを使用せずに異なる測定方法を切り替えることができます。また、**測定コード**を使用する際のワークフローもスムーズになります。

例えば、**測定コード**の使用中に測定方法を切り替える必要がある場合は、方法をファンクションキーに割り当てます。ファンクションキーを使用すると、測定方法と測定コードの強調表示されたコードが既に設定された状態で**地形の測定**フォームまたは**ポイントの測定**フォームが開きます。

方位角計算の機能強化

Trimble Accessでは、ハイフンで区切られた2点の名前(PointName1-PointName2など)を任意の**方位角**フィールドに入力することで、常に2点間の方位角を計算できました。

- 任意の**方位角**フィールドの方位角を計算できるようになりました。**方位角**フィールドをタップし、マップ内の最初のポイントをタップしてから、もう一つのポイントをタップします。または、線を選択すると、ソフトウェアが線の方位角を**方位角**フィールドにコピーします。

これは、杭打ち中にオフセットポイントを作成する場合に特に便利で、杭打ちオフセット画面をマップと一緒に表示できるようになり、マップ内の線またはポイントのペアを選択してオフセット方向を定義できるようになりました。

- 2点間の方位角の計算後、計算された方位角を変更できるようになりました。
 - 垂直にするには、 をタップし、-90または+90を選択します。
 - 方位角を逆にするには、 をタップし、+180を選択します。

この機能は、方位角に基づいてポイントを計算する際や、オフセットポイントの方位角を設定する場合に便利です。

水平距離計算の機能強化

水平距離フィールドをタップし、次にマップ内で一つ目のポイントをタップした後、終了ポイントをタップすることで任意の水平距離フィールドで距離を計算できるようになりました。また、線を選択すると、ソフトウェアが線の距離を水平距離フィールドにコピーします。

距離オフセットをリセットするオプション

トータルステーション測量における距離オフセット観測方法は、ポイントにアクセスできないが、ターゲットポイントからオブジェクトまでの水平距離を測定できる場合に使用されます。以前のバージョンでは、オフセット測定の繰り返しを容易にするために、ソフトウェアは次の測定のためにオフセット値を記憶していました。

通常、一つのオフセットのみを測定するユーザーの作業を容易にするため、測定値を保存した後、自動的に距離オフセット値を0にリセットするようにソフトウェアを設定できるようになりました。測定画面でオプションをタップし、距離オフセットグループボックスの保存後にオフセットをリセットチェックボックスを選択します。

テキストフィールド内のテキスト編集の改善

- テキストフィールドをタップしてオンスクリーンキーボードを表示すると、フィールド内のテキストは強調表示されたままになるので、必要に応じてフィールド内のすべてのテキストを簡単に置き換えることができます。すべてのテキストを置き換える必要がない場合は、編集するフィールド内をもう一度タップします。
- テキストフィールド内をタップ&ドラッグして、フィールド内のテキストの全部または一部を強調表示すると、切り取り、コピー、貼り付けのポップアップメニューが表示されるようになりました。

線の確認

- マップ内の線を確認する際、Trimble Accessは次を表示するようになりました:
 - ジョブ内のポリラインおよび特徴コード付き線画、およびDXFファイル、WFSファイル、KMLファイル内の水平距離と斜距離。
 - 開始座標と終了座標が同じラインの周長と面積
- 距離の値をグリッド座標から平面座標に変更するには、オプションキーをタップします。

WFSファイルからのノードの作成と属性の保存

ウェブ特徴サービス背景図を使用する際、マップ設定画面でノードの作成(DXF、シェープ、12da、LandXML)チェックボックスを選択すると、マップ内でWFSファイルからの線やポリラインを選択し、線の端やポリラインに沿ったすべての点にポイントを作成することができます。

Trimble Access 2024.10では、スナップ先ツールバーのツールを使用してノードも作成できるようになりました。作成後のポイントは、その後、杭打ちまたは座標計算用に選択可能です。

WFSファイル内のエンティティからノードまたはポイントを作成すると、Trimble AccessはWFSファイルからエンティティの属性をコピーし、Trimble Accessジョブのポイントとともに保存するようになりました。

RTXインターネットが必要に応じて自動的にRTX衛星に切り替わる

測量スタイルがRTX(インターネット)を使用するように構成されているときに、ソフトウェアがインターネットに接続できない場合や、またはインターネット接続が中断された場合に、自動的にRTX(SV)を使用するように切り変えるようになりました。インターネット接続が回復すると、RTX(インターネット)を使用して再開されます。

ステータスバーのステータスラインのメッセージは、RTXソースが変更されたことを示します。

注意 – 測量スタイルがRTX(インターネット)からRTX(SV)に自動的に切り替わるようにするには、接続されたGNSS受信機のファームウェアが、Trimble ProPoint®テクノロジーを搭載したTrimble受信機の場合はバージョン6.28以降、搭載していない受信機の場合はバージョン5.68以降である必要があります。

RTCM-135無線プロトコルの対応

ファームウェアがRTCM SC135 13500.1無線プロトコルをサポートしているTrimble無線機に接続する際、Trimble Accessは、ユーザーが**基準局無線モード**を**RTCM-135**に設定する操作を許可するようになりました。この無線モードは、リアルタイムのDGNSS基準局データ(RTKデータを含む)を送受信するための業界標準の無線間プロトコルであり、異なるメーカーの無線機が互いにリアルタイムの基準局データを交換することができます。

高速ラピッドポイント

ラピッドポイント観測時間を平均で約20%改善しました。

地形ポイント観測時間

地形ポイントの観測時間は既定で2秒/2エポックになり、HD-GNSSまたはTrimble ProPoint® RTKエンジンを搭載したモジュラ受信機がサポートされるようになりました。

GNSS測量スタイルの初期設定をR980受信機に設定

GNSSの新しい測量スタイルを作成する際、**受信機オプション**画面の既定の受信機がTrimble R980受信機の場合は**R980内部**になりました。

既定の測量スタイルは、ソフトウェアの新規インストールが開始されたときにTrimble Accessによって作成されますが、これは既存の測量スタイルが存在しない場合に限りです。以前のバージョンからTrimble Access 2024.10にアップグレードする際、コントローラにすでに測量スタイルがインストールされている場合、選択した受信機タイプは既存の測量スタイルの受信機タイプになります。

属性画像のメディアファイルの名前付け

メディアファイルの命名標準形式を設定するときに、設定された画像名が、画像を許可する属性フィールドに添付された画像にも使用されるようになりました。以前は、設定された画像名は、ジョブにアタッチされた画像、またはポイントやラインなどのジョブ内のエンティティに添付された画像にのみ使用されていました。

メディアファイル画面で**新しいメディアファイル**で**表示**オプションを選択した場合は、画像をキャプチャした後に、メディアファイル画面でメディアファイル名を編集できます。

詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)の**メディアファイル**のトピックをご参照ください。

開いているフォーム間の切り替えの改善

Ctrl + Tabを押して開いている画面(マップを除く)間を一方向に移動したり、**Ctrl + Shift + Tab**を押して開いている画面間を逆の順で移動したりする操作が、異なるアプリケーションのフォーム間で機能するようになりました。

計算機のファンクションキーが一般観測 / 基本観測に切り替わらなくなりました

コントローラのファンクションキーをTrimble Accessで計算機を開くように設定してから、別のTrimble Accessアプリ(Trimble Access 道路など)を使用しているときにそのファンクションキーを押して電卓を使用すると、計算機は一般観測 / 基本観測に切り替えるのではなく、そのアプリで開くようになりました。

注意 - 以前のバージョンのTrimble Accessで計算機をファンクションキーに既に設定している場合、Trimble Access 2024.10にアップグレードした後、新しい動作を確認するには、ファンクションキーから計算機の割り当てを解除し、再割り当てする必要があります。

TIFFファイルサポートの強化

(1,1)クロマサブサンプリングを使用したYCbCr色圧縮のTIFFファイルがサポートされるようになりました。

地表デルタまでの距離の名前を変更

鉛直距離表面デルタと直角距離表面デルタを現在位置における表面までの鉛直距離と現在位置における表面までの直角距離に名称変更し、Trimble Access 道路の本リリースで追加された、新しいターゲットにおける表面までの鉛直距離とターゲットにおける表面までの直角距離から区別されるようにしました。

Bentley Open Road Designファイルのサポート

ジオデータをLandXMLファイルとしてエクスポートし、Bentley Open Road Designソフトウェアで表示できるようになりました。エクスポート画面でLandXMLを選択し、**Bentley互換形式**チェックボックスをオンにします。

ポリラインのエクスポート

道路-ライン-円弧杭打ちレポートスタイルシートおよび単票2スタイルシートを使用して、ポリラインを杭打ちポイントの測点およびオフセット値とともにエクスポートできるようになりました。

Road-line-arc stakeout report.xlsファイルは、**System Files**をインストールするときにコントローラのTrimble Accessフォルダにインストールされます。ソフトウェアをバージョン2024.10にインストールまたは更新すると、インストールされているRoad-line-arc stakeout report.xlsファイルが更新されます。

更新された**単票2.xls**ファイルを**スタイルシートのダウンロード**ページからダウンロードし、ファイルをコントローラの**System Files**フォルダにコピーできるようになりました。

FBKファイルへのエクスポート

FBKファイルのエクスポートオプションで、**水平チルトオフセット測定**などの極性ベクトルの出力がサポートされるようになりました。これらは、FBKファイルではNEZに縮小されます。

更新された**FBK file.xls**ファイルを**スタイルシートのダウンロード**ページからダウンロードし、ファイルをコントローラの**System Files**フォルダにコピーできるようになりました。

ノルウェーの地籍許容値の機能強化

地籍許容値チェックを実行する際、Trimble Accessは常に共分散を3Dで計算します。Trimble Access 2024.10では、xmlファイルの新しい**reliability3D**値がfalseに設定され、2D値が提供されます。3D値が必要な場合は、**reliability3D**値をtrueに設定します。

更新された**CadastralTolerances - Norway.xml**ファイルを**構成ファイルのダウンロード**ページからダウンロードし、ファイルの名前を**CadastralTolerances.xml**に変更してから、コントローラの**System Files**フォルダにコピーします。

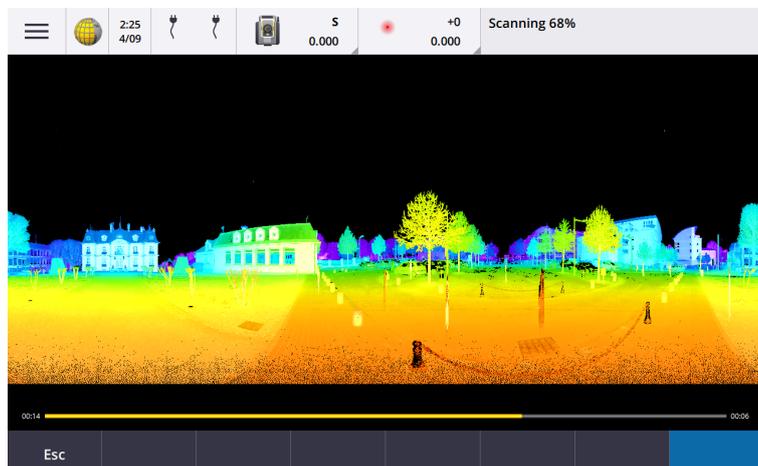
複数選択属性の機能拡張

Trimble Business Centerソフトウェアの特徴定義マネージャを使用して作成された特徴ライブラリFXLファイルの場合、拡張リスト属性または「複数選択」属性の外観と動作が改善されました。

- 複数選択属性値の概要が属性フィールドに表示されるようになりました。フィールド内をタップして、選択した値を編集します。
- 複数選択属性を選択または編集する場合、チェックマークは選択されている値を示します。

ソフトウェアがスキヤンの進行状況を表示するように

Trimble SX10またはSX12スキヤニングトータルステーションを使用してスキヤンすると、ソフトウェアは進行状況バーではなくスキヤンの進行状況を表示するようになりました。



ジョブ終了時の改善

ジョブの切り替え時やソフトウェアの終了時に、変更が保存されていないフォームが開いている場合のジョブの終了フォームのボタンの名前を改善しました。

- リストに含まれるフォームのいずれかを選択し、**戻る**をタップして、フォームと未保存の変更を表示します。
- **すべて閉じる**をタップすると、変更が破棄され、すべてのフォームが閉じます。
- **キャンセル**をタップすると、ジョブを閉じずにソフトウェアに戻ります。

クラウドプロジェクトで使用できなくなったジョブの表示制限設定

クラウドプロジェクトの **チームメンバー** タブからジョブの表示制限設定を削除しました。

以前にジョブの表示制限設定を使用して、チームメンバーに割り当てられていないジョブを表示されないように制限していた場合、設定はTrimble Accessで無視されるようになります。

Trimble DC v10.0へのエクスポート

Trimble AccessでのTrimble DC v10.0ファイルへのエクスポートはサポートされなくなりました。引き続きジョブデータをTrimble DC v10.7にエクスポートすることはできます。

GNSSエミュレータの改善

GNSSエミュレータでは、GNSS受信機への疑似接続を使用し、Trimble Accessの動作デモを行ったりトレーニングを実施することができます。

- GNSSジョイスティックウィンドウの**シグマ**タブに、**ノイズ**チェックボックスが追加され、「同じ」場所で測定するときにエポック間で位置がわずかに変化する信号ノイズの存在をエミュレートできるようになりました。**精密**測定の場合、エミュレートされるノイズの量は ± 5 mmです。**概略**測定の場合、エミュレートされるノイズの量は ± 0.5 mです。「同じ」位

置での測定値のこれらの変動を防ぐには、**ノイズ**チェックボックスをオフにします。

- デスクトップコンピュータでTrimble Accessを実行している場合、必要に応じて、**GNSSジョイスティック**のポップアップウィンドウをクリックしてTrimble Accessウィンドウの外側にドラッグできるようになりました。

SnakeGridサポートの改善

Trimble Accessは、オンラインで購入可能な、利用可能なすべてのタイプのSnakeGridファイルをサポートするようになり、大規模プロジェクトにインポートすることで歪みを最小限に抑えることができます。

座標系データベース更新

Trimble AccessとともにインストールされたTrimble座標系データベースには、次の機能強化が含まれています。

- エクアドル、コロンビア、チリの座標系を新しい変位モデルVEMOS 2022アップグレード
- WGS84(G2296) の新しい実現のサポートを追加
- ドバイのローカルTMゾーン対応を追加
- 南チロルのジオイドモデルを追加
- ポーランドのDBゾーンとドイツのVAゾーンのインポートの簡略化
- ETRS89をグローバル基準測地系として使用したクロアチアの固定RTX
- 日本のJGD2011変位モデルを2024バージョンに更新
- GSIの日本のGeoid 2011を最新バージョン2.2に更新
- ポルトガルのRTXの修正および定義済みのシステムのクリーンアップ
- ザンビアのEGM2008の抽出を新たに追加
- トルコのジオイドモデル-2020を追加し、トルコのゾーンで既定として使用

解決された問題

- **サインイン後にチームタブを表示する:** チームタブを選択した後にサインインを求められた場合、サインイン後もソフトウェアがチームタブに情報を表示しない問題を修正しました。
- **クラウド設定: 自動同期でモバイルデータの使用を許可するが無効になっている場合、コントローラがセルラ(モバイルデータ)通信接続になっていない場合でも、すべての自動同期アクティビティがブロックされる問題を修正しました。**
- **ファンクションキー:** ファンクションを別のファンクションキーに再割り当てすると、コントローラ上のファンクションキーの位置の説明が消える問題を修正しました。
- **ポイントマネージャ:** 重複ポイントのグループ内の一つ目のポイントの座標を編集した場合、ポイントマネージャ画面を閉じてから再度開くまで、更新された座標がポイントマネージャ画面に表示されない問題を修正しました。
- **カスタムインポートファイルエラー:** .ixlファイルで定義されたカスタムインポートを使用してテキストファイルをインポートする際の問題を修正しました以前は、テキストファイル内のデータ以外の行にフォームフィードやタブ文字が含まれていると、ソフトウェアが「ファイルエラー」を報告していました。
- **LandXMLへのエクスポート:** ジョブをLandXMLにエクスポートするときに、Trimble Access内のポイントと特徴コード化された円と曲線の間に作成されたポリラインがエクスポートされない問題を修正しました。
- **GVXへのエクスポート:** GNSS Vector Exchange形式にエクスポートする際の問題を修正し、Trimble AccessからエクスポートしたデータをOpusプロジェクトにインポートできるようになりました。更新されたスタイルシートは、ソフトウェアのバージョン2024.10とともにインストールされます。また、**スタイルシートのダウンロードページ**からも入手することができます。

- **測量計算での自動パン:** 測量計算機能を開いた際、選択されたエンティティ(黄色で強調表示)が完全に画面外になっているときに、大きなモデルがマップに表示されていると、マップが選択されたエンティティまで自動的にパンおよびズームしない問題を修正しました。
- **IFCワールドファイル:** IFCファイルをTrimBIM(*.trb)ファイルとしてダウンロードすると、Trimble AccessはIFCWワールドファイルを認識して使用し、TrimBIMファイルを配置できるようになりました。
- **関連面ファイルが間違っただプロジェクトに表示される:** 以前のプロジェクトの関連面ファイルが記憶され、別のプロジェクトのレイヤーマネージャまたはマップに表示される問題を修正しました。
- **プロパティをお気に入りに追加した後の複数のポイント:** ジョブに保存する前に仮想ポイントを確認するときに、属性のお気に入りプロパティを複数回有効または無効にすると、ソフトウェアが複数のポイントを保存する問題を修正しました。
- **制限ボックスのリセット:** 制限ボックスに関する以下の問題を修正しました:
 - 制限ボックスをリセットしてもマップ全体が再読み込みされなくなりました。マップ内のすべてのファイルを再読み込みすると、大きなファイルを使用するときに遅延が発生する可能性があります。
 - マップが平面図のとき、北を上にして制限ボックスをリセットすると、制限ボックスの向き(基準方位角)が0度に設定されるようになりました。
- **ウェブ特徴サービス:** ウェブ特徴サービスを使用する際の次の問題を修正しました:
 - 各特徴タイプは、使用可能な16色のいずれかを使用して表示されるようになりました。
 - ポリゴンはポリラインとして表示されなくなり、塗りつぶされたポリゴンとして表示されるようになりました。
 - WFSサービスがGeoJSONデータを提供し、ジョブファイルがWGS84とLocal LLHの間で大きな測地基準系変換を使用している場合、WFSデータがマップ内の間違っただ場所に表示されていました。
 - Trimble Accessは、特徴をリクエストするときにnamespaceパラメータを送信するようになり、選択したWFSからすべてのデータを取得する際の信頼性が向上しました。
- **ウェブマップサービス:** Trimble Access 2024.01を実行しているWindowsコントローラでウェブマップサービスに接続しようとする、WMSがSSLハンドシェイク失敗メッセージを返していた問題を修正しました。
- **特徴コード付き線画:** Feature Definition Managerでライン特徴コードの一部として定義されているオフセットラインが、Trimble Accessのマップで描画されるようになりました。以前は、制御コードを使用して描画されたオフセットラインのみがマップに表示されていました。
- **オフセットポリライン:** 隣接する円弧のサイズまたはオフセット距離に大きな違いがある場合に、隣接する円弧を含むポリラインが正しく計算されない問題を修正しました。
- **面へのオフセット:** マップ内の面へのオフセットを示す矢印が、垂直距離の二倍で表示される問題を修正しました。数字は正しかったのですが、表示に問題がありました。
- **測定コードでのソフトキーのストリング化:** 測定コード画面でマルチコードボタンが有効になっている場合、マルチコードモードでは使用できないため、+ Str、- Str、およびFind Strソフトキーが表示されなくなりました。
- **測定コードで最後に使用したコード:** キーパッドの1〜9キーを使用してコードを選択すると、ポイントを保存した後に測定コードに戻ったときに、最後に使用したコードが強調表示されない問題を修正しました。
- **測定コードにメモを追加する:** メモをキー入力した後も、測定コード画面の最後に使用したコードボタンの強調表示が維持されるようになり、Enterを押すことで簡単に最後に使用したコードを使用して次のポイントを測定することができるようになりました。
- **オフセット制御コード:** コードを使用するとソフトウェアがコードフィールドに複数の水平オフセットや垂直オフセットを追加し、マルチコードボタンが有効になっているときにオフセット制御コードを追加する問題を修正しました。
- **最後に使用した距離オフセット:** 地形の測定オプション画面の保存前に表示チェックボックスが選択されていない場合に、最後に使用した距離オフセットが正しくソフトウェア上で表示されない地形ポイントの測定時の問題を修正しました。

- **鉛直デルタと垂直デルタ:** 光学測量機を使用した杭打ち中に鉛直デルタと垂直デルタを報告する際に、面に鉛直オフセットを適用すると、面から計算されたオフセットが間違っていた位置になっていた問題を修正しました。
- **杭打ちの接頭辞と接尾辞:** 接頭辞フィールドと接尾辞フィールドが、これらのフィールドが測量スタイルで設定されている場合にのみ、杭打ちオプション画面に表示される問題を修正しました。
- **ポリラインの杭打ち:** 杭打ち中にポリラインの方向を逆にした場合、測点間隔を再入力するまでSta+またはSta-ソフトキーのタップが正しく機能しない問題を修正しました。
- **CADツールバー:** CADツールバーから滑らかな曲線の開始または接線円弧開始コードを使用した場合、一つ目のポイントの後のコードフィールドからコードが自動的に削除されない問題を修正しました。
- **ポイントに移動:** コントローラの内部GPSを使用してポイントに移動する際に、標高(Elev.)と垂直距離(V.Distance)の値が表示されるようになりました。
- **RTX収束のリセット:** RTXステータスフォームのリセットソフトキーを修正し、接続されたGNSS受信機がRTX収束計算をリセットするようにしました。
- **RTK無線リンク:** RTK無線データリンクを設定すると、接続画面に測点IDを有効にするフィールドの代わりにCall signを有効にするフィールドが表示され、測点IDフィールドの代わりにCall signフィールドが表示されるようになりました。これらのフィールド名は受信機のWebUIと一致し、特定の基準局を選択するためにソフトウェアの他の場所で使用されるステーションインデックスフィールドとより簡単に区別することができます。
- **RTK基準局上書き警告:** 後方交会法器械点設置または測点標高の手順により、ジョブに保存されている同じ名前のRTK基準局を上書きするポイントが保存される場合、Trimble Accessソフトウェアに警告が表示されるようになりました。
- **RTX測定ポイントのRTK基準局:** RTXで測定されたジョブ内のポイントで、同じジョブでRTK基準局を複数回開始できるようになりました。以前のバージョンでは、基準局が最初にRTXポイントで開始されたときにソフトウェアがチェッククラスポイントを保存し、その後、同じポイント名で基準局を開始しようとすると、「ポイントにはチェックショット分類がありません」というエラーメッセージが表示されました。ソフトウェアは、RTXポイントと同じ名前のチェッククラスグローバルポイントを保存しなくなり、そのRTXポイント上のジョブで複数の基準局開始が可能になりました。ユーザーは、RTXポイントで基準局を開始する前に、ジョブ内のRTK-RTXオフセットとジョブの時間依存の座標系情報が確定していることを確認する必要があります。
- **コントローラインターネットRTCM RTK基準局:** 基準局がコントローラインターネット接続を使用しているとき、インターネット基準局からのRTCM RTK放送形式を使用すると、受信した基準局ポイントの高さが誤って計算され、移動局ジョブファイルに書き込まれる問題を修正しました。これは、コントローラのインターネット接続を使用するIBSS基準局では問題ではありませんでした。
- **SXファイルスペースの予測:** Trimble SX10またはSX12スキャニングトータルステーションを使用してスキャンまたはパノラマを開始するときに、ソフトウェアがコントローラのファイルスペース不足を警告する問題を修正しました。設定を変更してファイルが作成されるように設定を変更すると、ソフトウェアがファイルサイズを再予測するようになりました。
- **後視の確認:** 追跡モード中に後視の確認を開始すると、ソフトウェアは後視に回転する前に検索を開始しなくなりました。
- **補助GPS:** Bluetooth経由で接続された補助GPSからの位置が使用されない問題を修正しました。
- **T10xファンクションキー:** Trimble T10xタブレットのファンクションキーがサポートされていない問題を修正しました。タブレットにインストールされているボタンマネージャアプリを使用してファンクションキーを設定し、Trimble Accessでお気に入りの機能を割り当てることができます。
- **コントローラがスリープにならない:** Trimble Access 2024.00で発生した、Windowsを実行しているコントローラが、Trimble Accessが実行されたままで機器やGNSS受信機に接続されていない場合、期待通りにスリープしないという問題を修正しました。

- **アプリケーションエラー:** ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - **属性画面**が開いていて、使用可能なファイル名属性がないときに画像をキャプチャする場合。
 - **ポイントマネージャ**でRXL ファイルを表示し、表示を**測点とオフセット**に変更するとき。
 - ソフトウェアを最後に終了する前に使用したジョブが、CadastralTolerances.xmlファイルを使用していたときに、ソフトウェアを起動した場合。
 - 縦置きモードで実行されているコントローラで**ポイントまでナビゲート**画面が開いているときに、**杭打ちオプション**画面を表示した後。
 - Trimble SX10またはSX12スキャニングトータルステーションを使用してスキャンを完了した後。
 - 国とチャンネルの間隔の設定を変更した後、EM940 Empower RTK無線機を構成するとき。
 - ポールのバイアス調整を実行するとき。
 - 現在のジョブの**レイヤーマネージャ**でレイヤーの表示を変更した後で、JXLファイルから新しいジョブを作成する場合。
 - VISIONテクノロジーを搭載したTrimbleトータルステーションに接続しているときに、フルサイズに設定されているときに**Survey Basic**画面に戻るとき。
 - ポイントが属性を含む特徴コードを使用する角観測を測定する際に、角観測を早期に終了した後。

道路

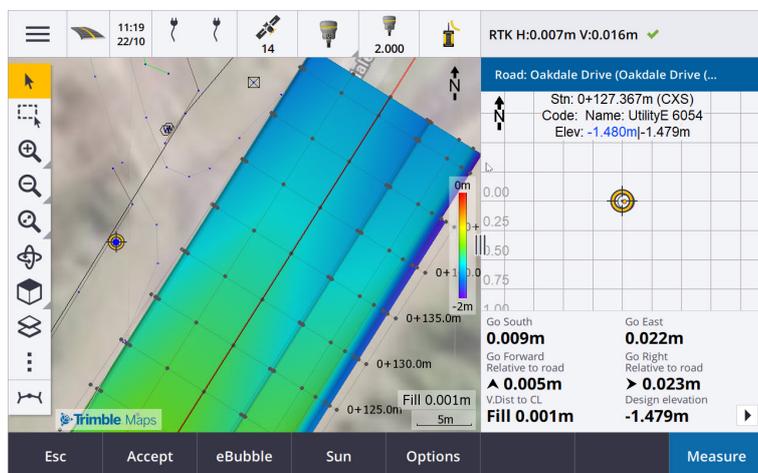
機能強化

道路杭打ち中に追加のポイントを簡単に杭打ち

道路の杭打ち中に、**道路設計**ファイルから杭を打つか、**ストリング**や**表面**から杭を打つかに応じて、マップから追加で杭打ちするポイントを選択できるようになりました。

追加ポイント方法を使用すると、排水システム、街灯柱、道路標識の主要な位置など、道路設計ファイルの一部ではない設計フィーチャを、道路アプリを終了して一般観測 / 基本観測に切り替えることなく杭打ちすることができます。追加のポイントは、プライマリ線形またはストリングからの測点とオフセットの詳細を提供します。

杭打ち中に、必要に応じて追加のポイントを杭打ちします。ジョブ内の任意のポイントをタップするか、DXF、BIM、CSVなど、任意の種類の関連ファイル内のポイントをタップします。



詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)のトピック「追加のポイントの杭打ち」をご参照ください。

ターゲットデルタにおける表面までの新しい距離

新たに2つの道路デルタを追加しました。

- **ターゲットの表面までの鉛直距離**
- **ターゲットにおける表面までの直角距離**

これらの新しいデルタは、ターゲット位置の表面までの鉛直距離または直角距離を示します。たとえば、ストリング上の測点を杭打ちする場合の**ターゲットデルタにおける表面までの鉛直距離**は、**測点の下の表面までの鉛直距離**を示し、ストリングを杭打ちする場合には、**ストリングの下の表面までの鉛直距離**を示します。

これらのデルタを、既存の**鉛直距離表面デルタ**と**直角距離表面デルタ**と区別するために、名前を**現在位置における表面までの鉛直距離**と**現在位置における表面までの直角距離**に変更しました。

Androidにおける道路ドライブスルーの対応

Androidを実行しているコントローラで道路アプリを使用すると、道路設計ファイルの道路定義の自動3Dドライブスルーを表示できるようになりました。以前は、この機能はWindowsを実行しているコントローラを使用している場合のみ使用可能でした。ドライブスルーを開始するには、マップ内の線形をタップし、**レビュー**をタップし、平面図で**3Dドライブ**をタップします。

パフォーマンスの改善

以下を使用する際のTrimble Access 道路のパフォーマンスを改善しました:

- **杭打ち中の道路ファイル:** ユーザーに表示されるマップの読み込みメッセージが少なくなり、応答性が向上します。
- **LandXMLファイル:** 一部の設計ファイルに存在する過剰な測点/横断面が直線上で削除され、マップ内の道路の初期読み込みが改善され、過度な道路の再読み込みが削減されました。

解決された問題

- **曲線上の負の測点距離:** 道路で杭打ちを行う際、杭打ちされる位置が180度を超える円弧上にある場合、測点値が負になり、**CLまでの垂直距離値に?**が表示される問題を修正しました。
- **追加ポイント:** 以下を含む追加ポイントに関するいくつかの問題を修正しました:
 - 追加ポイントの工事オフセットが、横断表示で正しく描画されるようになりました。以前は、これらは誤って描画されていました(追加のポイントから開始されていませんでした)。
 - **選択**ソフトキーを使用して**追加ポイント**リストを表示する場合、選択せずに**Esc**キーをタップしてリストから移動すると、マップに誤った水平方向の工事オフセットグラフィックスが表示される。
 - 2D線形上の追加のポイントを確認するときに横断表示を使用できていた場合。横断表示は、線形が3Dである場合にのみ使用できるようになりました。
 - RXL道路ファイルで選択した追加ポイントが、横断表示で誤って強調表示されていました。
- **水平工事オフセット:** 水平工事オフセットを使用する際の以下の問題を修正しました:
 - ナビゲーション画面で設計標高を変更するときに、水平工事オフセットが横断表示に正しく表示されるようになりました。
 - 追加のポイントまたは追加のストリング上のポイントを杭打ちする場合、水平工事オフセットオフセットは平面図に表示されなくなりました。

- **オフロードまたはオフストリングデルタ:** 現在位置がオフロードまたはストリングから外れている状態で**道路まで**または**ストリングまで**の杭打ちを行うと、ナビゲーションデルタを計算できないため、ソフトウェアはナビゲーションデルタを表示しなくなりました。以前は、ソフトウェアは終了測点の位置に対して誤って計算されたデルタを表示していました。
- **ストリング上の測点の杭打ち:** ストリング上の測点を杭打ちするとき、追加の表面の横断面が現在地ではなく、測点の位置に表示されるようになりました。
- **測点範囲外エラー:** プライマリストリングが円弧であるストリングに測点を杭打ちする際に、ソフトウェアで「測点が範囲外」のエラーが表示されなくなりました。
- **2本のストリングへの杭打ち:** プライマリストリングをストリングの**1つ**として使用して**2本のストリング**に杭打ちするとき、ナビゲーション画面に両方のストリング名が表示されるようになりました。
- **ストリングへの杭打ち:** この方法は他のストリングを杭打ちするためのものであるため、ストリングに杭打ちする際にプライマリストリングを選択することはできなくなりました。プライマリストリングに杭打ちするには、**プライマリストリングまで法**を使用します。
- **基準線形の選択:** プライマリストリングへの杭打ち時に、タップ& ホールドメニューから**基準線形**項目を選択できない問題を修正しました。
- **線形への杭打ち:** 線形への杭打ち時に、**レイヤーマネージャ**に同じ名前の別の線形が表示されている場合、杭打ちデルタが間違った線形に対して報告される問題を修正しました。
- **横断表示で2Dポイントが正しく表示されない:** 2Dポイント(標高のないポイント)を横断表示で表示できる問題を修正しました。横断表示で表示できるのは3Dポイントのみです。
- **編集された設計標高:** 杭打ちを終了すると、編集された設計標高は破棄され、次回は元の設計標高が使用されます。
- **設計測点:** 線形の杭打ち中の**設計測点**の表示が、選択した設計測点ではなく、ヌルになる問題を解決しました。
- **アプリケーションエラー:** ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - 想定される入口すりつけ曲線ではなく、出口すりつけ曲線で始まる線形を含む12daファイルを表示しようとする、ソフトウェアは線形を表示できない旨の警告を表示するようになりました。ファイルの他の部分は表示して使用することができます。以前は、このエラーが発生するとソフトウェアは自動的に閉じていました。
 - Androidを実行しているコントローラで12daファイルを表示しようとした場合に、ファイルに鉛直方向の測点距離のみを含む線があり、水平方向の測点距離がないとき。
 - ポイントマネージャでRXLファイルを表示し、表示を**測点とオフセット**に変更するとき。
 - 片方または両方のストリングが自身に折り返す形になっているストリングで、**二本のストリングまで**杭打ちを行うとき。
 - RXL道路のテンプレートに法面要素が含まれている場合に、線形に測点を杭打ちしようとするとき。
 - LandXMLファイル内の複数のエンティティを選択し、**定義**ソフトキーをタップする際。
 - 同じ測点で複数のストリングが同じ名前を持つLandXMLファイルを確認する場合。
 - **補助GPS**が有効になっているときに、**3Dドライブ**機能を使用して道路設計ファイルの道路定義を確認しようとするとき。

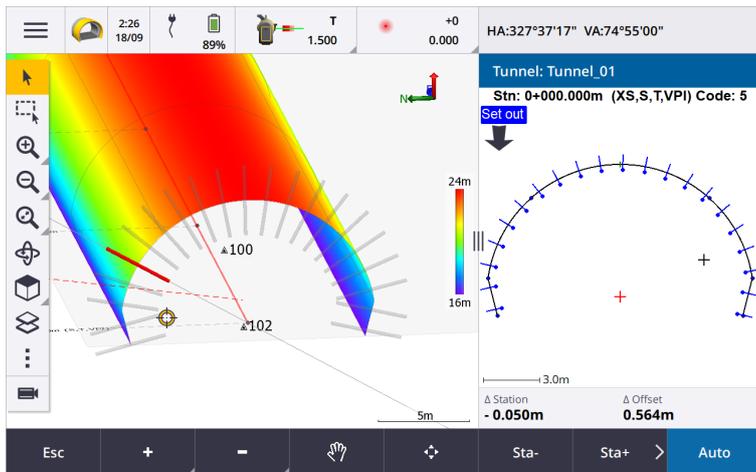
トンネル

機能強化

セットアウト位置が杭打ち中にマップに表示される

すべてのセットアウト位置がマップ内で3Dオブジェクトとして表示されるようになりました。以前は、セットアウト位置は横断表示にのみ表示されていました。複数のセットアウト位置を選択すると、セットアウトされている現在の位置が赤い3Dオブジェクトとして表示され、3Dオブジェクトの端を越えて細い線が突き出て表示されます。選択した他の位置は、灰色の3Dオブジェクトとして表示されます。

これらをマップ上に3Dオブジェクトとして表示することで、設定した位置がどこにあるかを3Dで視覚的に表現し、正しい位置を確認しやすくなります。



スキャンと表面点検がトンネルアプリ内で使用可能に

Trimble SX10またはSX12スキャニングトータルステーションに接続されているとき、トンネルアプリの**測量**メニューからスキャンや表面点検を実行できるようになりました。以前は、スキャンと表面検査は、一般観測 / 基本観測アプリに切り替えることによるのみ実行可能でした。

注意 - Trimble VISION技術を搭載したTrimble VXシリーズまたはSシリーズ機器を使用してトンネルをスキャンするには、一般観測 / 基本観測アプリに切り替える必要があります。表面点検は、Trimble VXシリーズまたはSシリーズ機器を使用して完了したスキャンでは実行できません。

Androidにおけるトンネルドライブスルーの対応

Androidを実行しているコントローラでトンネルアプリを使用すると、トンネル定義の自動3Dドライブスルーを表示できるようになりました。以前は、この機能はWindowsを実行しているコントローラを使用している場合にのみ使用可能でした。ドライブスルーを開始するには、マップ内のトンネルをタップし、**レビュー**をタップし、平面図から**3Dドライブ**をタップします。

解決された問題

- **アプリケーションエラー**: ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - **補助GPS**が有効になっているときに、**3Dドライブ**機能を使用してトンネル定義を確認しようとしたとき。

採掘鉞

機能強化

発破孔の選択

Trimble Access 2024.10では、発破孔の選択を容易にするために次の機能強化が行われました:

- **発破孔の定義** リストがマップの横に表示されるようになり、マップ上で選択したポイントを確認できるようになりました。
- リストから選択したポイントのリスト、ポイントの順序、または線の方向に加えた変更は、マップに反映されます。
- ポイントを手動で並べ替えるには、リスト内でポイントをタップして上下にドラッグできます。
- 杭打ちが不要なポイントは、リストから削除することができます。**Ctrl**を押して複数のポイントを選択し、**削除**をタップすると、一度に削除することができます。一度に複数のポイントを削除するには、リスト内のポイントを選択してから、**削除↓**または**削除↑**をタップし、リスト内の選択したポイントの下または上のすべてのポイントを削除します。

解決された問題

- **発破孔の名前:** Trimble AccessがSurpacファイルからインポートされた発破孔の名前を誤って変更していた問題を修正しました。
- **アプリケーションエラー:** ソフトウェアを使用したり閉じたりする際にアプリケーションエラーを時折発生させる幾つかの問題を修正しました。とりわけ:
 - 列ヘッダをタップして発破孔を並べ替えた後に、**交換**ソフトキーをタップし、発破孔の方向角を逆向きにする場合。

パイプライン

解決された問題

- **パイプラインフォルダ:** パイプラインフォルダがジョブと共にコントローラにダウンロードされる問題を修正しました。パイプラインフォルダは、集計ファイル処理中にクラウドでのみ使用されるため、ダウンロードされなくなりました。

サポートされている機器

Trimble Accessソフトウェアのバージョン2024.10は、下記のソフトウェアおよびハードウェア製品との通信に最適です。

注意 - 最高のパフォーマンスを維持するため、ハードウェアには常に使用可能な最新のファームウェアをインストールしてください。

最近のソフトウェアおよびファームウェアバージョンに関する詳しい情報は、[Trimble地球空間ソフトウェアおよびファームウェアの最新リリース文書](#)をご参照ください。

サポートされているコントローラ

Windows端末

Trimble Accessソフトウェアは、以下のWindows®デバイスで実行可能です:

- TrimbleTSC7コントローラ
- Trimble T7、T10、T10x、またはT100タブレット
- 対応サードパーティー製タブレット

サポートされているサードパーティー製タブレットの詳細については、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[サポート公示](#)ページからダウンロードできるサポート公示[Trimble Access on 64-bit Windows 10 & 11](#)を参照してください。

Android端末

Trimble Accessソフトウェアは、以下のAndroid™端末上で実行されます:

- TrimbleTSC5コントローラ
- Trimble TDC6ハンドヘルドデータコレクタ
- Trimble TDC600ハンドヘルドデータコレクタ
- TrimbleTDC650ハンドヘルドGNSS受信機(Trimble Access受信契約の場合のみ)
- TrimbleTCU5コントローラ

ヒント - Trimble Accessは、TDC6およびTDC600ハンドヘルドの、縦長モードと横長モードの両方で使用することができますように設計されています。縦長画面およびAndroid OSを使用できるようにするためにユーザーインターフェースが多少異なっています。詳細については、[Trimble Accessヘルプ](#)のTrimble Accessワークスペースのトピックを参照してください。

注意 - Trimble TDC650ハンドヘルドGNSS受信機は、Trimble Accessサブスクリプションでのみ使用することができます - Trimble Access永久ライセンスでは使用することはできません。TDC650はGNSSのみの測量のために設計されており、トータルステーションへの接続はサポートされていません。トータルステーション測量を必要とするTrimble Accessアプリは、TDC650では使用することはできません。これらには、Trimble Access トンネル、採掘鉞、モニターがあります。Trimble AccessでTDC650を使用する方法については、下記の[サポート対象のGNSS受信機](#)セクションを参照してください。

サポート対象の一般機器

Trimble Accessを実行中のコントローラに接続可能な従来型機器は以下の通りです:

- Trimbleスキャニングトータルステーション: SX12、SX10
- TrimbleVX™ スペーシャルステーション
- TrimbleS Seriesトータルステーション: S9、S7、S5 とS8、S6、S3
- Trimble機械式トータルステーション: C5、C3、M3、R4、M1
- TrimbleSPS Seriesトータルステーション
- Trimble RTS Seriesトータルステーション
- Spectra® Geospatialトータルステーション: FOCUS® 50/35/30
- サポート対象のサードパーティー製トータルステーション

Trimble Accessソフトウェア内で使用可能な機能は、接続された機器の型式およびファームウェアバージョンによって異なります。Trimbleでは、本バージョンのTrimble Accessを使用されるに当たって、入手可能な最新のファームウェアに機器をアップデートすることをお勧めします。

注意 - TSC5コントローラー、TDC600モデル2ハンドヘルドとTDC6ハンドヘルドからTrimble SX10またはSX12スキニングトータルステーションに接続することができます。ただし、TCU5コントローラーとTDC600モデル1ハンドヘルドを使用する場合、Trimble SX10またはSX12スキニングトータルステーションへの接続はサポートされません。

サポート対象のGNSS受信機

Trimble Accessを実行中のコントローラに接続可能なGNSS受信機は、以下の通りです:

- TrimbleRシリーズ統合GNSS測量システム:
 - 慣性測定ユニット(IMU)内蔵: R980、R780、R12i
 - 磁力計チルトセンサ内蔵: R12、R10
 - その他のRシリーズ統合GNSS受信機: R580、R8s、R8、R6、R4、R2
- Trimble Catalyst™ GNSS測位サービス受信機: DA2
- TrimbleモジュラーGNSS測量システム: R750、R9s、NetR9 Geospatial、R7、R5
- TrimbleSPSシリーズGNSSスマートアンテナ: SPS986、SPS985、SPS985L、SPS785、SPS585
- TrimbleSPSシリーズGNSSモジュラー受信機: SPS85x
- TrimbleAlloy GNSS基準局受信機
- TrimbleTDC650ハンドヘルドGNSS受信機
- 慣性計測ユニット(IMU)内蔵型Spectra Geospatial GNSS受信機: SP100
- Spectra Geospatial内蔵GNSS受信機: SP85、SP80、SP60
- Spectra GeospatialモジュラーGNSS受信機: SP90m
- FAZA2 GNSS受信機
- S-Max GEO 受信機

注意 -

- Trimble AccessでTrimbleDA2GNSS受信機を使用するには、有効なCatalystサブスクリプション契約があり、かつサインインしている必要があります。ユーザまたはコントローラに割り当てられているライセンスの種類は、 をタップして情報を選択すると表示されます。詳しくは、[Trimble Accessヘルプ](#)のTrimble Accessのインストールのトピックを参照してください。
- 上記のサポートされているコントローラセクションで説明されているように、Trimble TDC650ハンドヘルドGNSS受信機は、Trimble Access利用契約でのみ使用することができます(永久ライセンスでは使用できません)。Trimble Accessで使用する場合、TDC650は:
 - Trimble® Zephyr™ 3アンテナなどの外部アンテナには接続できますが、他のGNSS観測には接続できません。
 - エコーサウンダーやレーザ測距儀などの他の測量機器に接続することができます。
 - GNSS RTK 解としてのみ使用することができ、以下の精度を提供します:
 - センチメートル精度 - 水平: 10mm、鉛直: 15mm
 - デシメートル精度 - 水平: 70mm、鉛直: 20mm
 - サブメートルの精度 - 水平: 300mm、鉛直: 300mm
 - RTXでは使用できず、後処理にも使用できません。
 - カメラ内蔵の電子気泡管はサポートされていません。
- Spectra Geospatial SP90m、SP85、SP80、またはSP60受信機を使用する場合、Trimble Accessソフトウェアのすべての機能が使用できるわけではありません。詳しくは、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[サポート公示](#)ページからダウンロードできるサポート公示Spectra Geospatial receiver support in Trimble Accessを参照してください。

インストール情報

ライセンス要件

Trimble Access 2024.10をインストールするには、一般観測 / 基本観測アプリのほか、使用したい各Trimble Accessアプリのライセンスが必要です。

- **永久ライセンス**

永久ライセンスは、コントローラにライセンスされます。コントローラには、**11月 2024**まで有効なTrimble Access Software Maintenance Agreementが必要です。

- **受信契約**

受信契約ライセンスは、個々のユーザーに割り当てられます。受信契約ライセンスで使用する際、サポート対象の任意のコントローラにTrimble Access 2024.10をインストールすることができます。

既存のコントローラに永久ライセンスがあるが、そのコントローラを廃止して新しいコントローラに交換したい場合は、既存のコントローラから永久Trimble Accessライセンスを放棄して、新しいコントローラに移行できる場合があります。

詳しくは、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[ソフトウェアライセンスとサブスクリプション](#)をご参照ください。

アカウントをお持ちでない場合 ソフトウェアをお試しいただけます

必要なライセンスをお持ちでない場合は、一定期間、ソフトウェアを試すことができます。

オプションは以下の通りです:

- サインインして利用契約を使用できない場合、または永久ライセンスを購入したがコントローラにまだ割り当てられていない場合に備えて、Trimble Access用の**48時間ライセンス**を作成します。
- コントローラに有効な永久ライセンスがない場合、Trimble Accessの**30日間のデモライセンス**を作成します。このタイプの一時ライセンスは、対応WindowsおよびAndroidコントローラで利用できます。
- コントローラに有効な永久ライセンスがあるものの、試したい特定アプリのライセンスがない場合は、特定Trimble Accessアプリの**30日間の試用ライセンス**を作成します。このタイプの一時ライセンスは、対応Windowsコントローラでのみ使用できます。

詳しくは、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[一時ライセンスのインストール](#)を参照してください。

Trimble Accessのインストールまたはアップグレード

ソフトウェアをコントローラにインストールするには、コントローラのオペレーティングシステムに応じて正しいTrimble Installation Managerを使用します:

- Trimble Installation Manager Windows用 
- Trimble Installation Manager Android用 

詳しくは、[Trimble Access ヘルプポータル](#)の[Trimble Accessのインストール](#)を参照してください。

注意 - 旧バージョンのTrimble Accessを使用して作成されたジョブ(.job)ファイルは、Trimble Accessの最新バージョンで開いた際に自動的にアップグレードされます。アップグレードされたジョブは、旧バージョンで開くことはできなくなります。詳しくは、[Trimble Access ヘルプ](#)の[最新バージョンのTrimble Access](#)で[既存ジョブを使用する](#)を参照してください。

学習 リソース

Trimble Accessソフトウェアの機能とソフトウェアを最大限に活用する方法の詳細については、以下のリソースを参照してください。

Trimble Accessヘルプポータル

Trimble Accessヘルプポータルは、help.trimblegeospatial.com/TrimbleAccess/からご覧いただくことが可能で、Trimble Accessヘルプのすべての内容を14言語で提供しています。また、Trimble Access YouTubeチャンネルの動画へのリンクも掲載されています。

Trimble Accessヘルプポータルダウンロード領域には、以下を含む有用なリソースへのリンクを掲載しています:

- サポート公示
- ソフトウェアとユーティリティ
- テンプレートファイル
- スタイルシート
- サンプルデータ
- リリース資料(プレゼンテーションや動画を含む)
- PDFガイド

Trimble Accessヘルプポータルは、インターネットに接続されている任意のコンピュータから、Trimble Accessソフトウェアをインストールすることなく表示できます。また、携帯電話からのアクセスや、オンボードヘルプをインストールしないことを選択した場合でも、Trimble Accessを実行しているコントローラからご覧いただくことが可能です。

Trimble Accessヘルプ

Trimble Accessヘルプは、Trimble Installation Managerで言語とヘルプファイルチェックボックスを選択すると、ソフトウェアとともにインストールされます。インストールされているヘルプを表示するには、Trimble Accessソフトウェアで☰をタップし、ヘルプを選択します。Trimble Accessヘルプが開き、Trimble Accessソフトウェアで現在表示されている画面のヘルプトピックに直接移動します。

Trimble AccessYoutubeチャンネル

Trimble AccessYouTubeチャンネルには、便利なソフトウェア機能を紹介する多数の動画があります。最近追加された機能を紹介する動画や、特定の分野を紹介するプレイリストをご覧いただくことができます。

新しい動画は定期的に投稿されるため、Trimble AccessYouTubeチャンネルページの登録をクリックして、新しい動画が公開された時に通知を受け取るようにしてください。

Trimble Accessアプリ

Trimble Accessソフトウェアスイートは、測量士や地理空間の専門家向けに、現場作業を容易にする一連の専門フィールドアプリケーションです。使いやすいインターフェース、最適化されたワークフロー、リアルタイムデータ同期により、Trimble Accessソフトウェアは、日々の作業の成果をさらに高めることを可能にします。実際の作業に最適なアプリケーションを選択することで、競争力の向上を図りましょう。

Windows端末でサポートされているTrimble Accessアプリ

以下のTrimble Accessアプリは、対応Windowsデバイスで本バージョンのTrimble Accessを実行する際にサポートされています。

- 道路
- トンネル
- 採掘鉞
- Land Seismic

- パイプライン
- Power Line
- Katastermodul Deutschland
- モニター
- AutoResection
- BathySurvey

Android端末でサポートされているTrimble Accessアプリ

以下のTrimble アプリは、対応Androidデバイスで本バージョンのTrimble Accessを実行する際にサポートされています:

- 道路
- トンネル
- 採掘鉞
- パイプライン
- Power Line
- Katastermodul Deutschland
- モニター
- AutoResection
- AllNAV Rounds

注意 - サポートされているTrimble Accessアプリへの変更は、リリース後に変更される可能性があります。最新の情報、またはTrimble Accessの旧バージョンでサポートされているアプリケーションの詳細については、**Trimble Access App availability**の[サポート公示ページ](#)からダウンロードすることができるサポート公示Trimble Accessヘルプポータルを参照してください。

法的情報

© 2024, Trimble Inc. All rights reserved. Trimble, the Globe and Triangle logo, ProPoint, Spectra, and Trimble RTX are trademarks of Trimble Inc. registered in the United States and in other countries. Access, IonoGuard, VISION, and VX are trademarks of Trimble Inc. For a complete list of legal notices relating to this product, go to help.trimblegeospatial.com/TrimbleAccess/ and click the **Legal information** link at the bottom of the page.